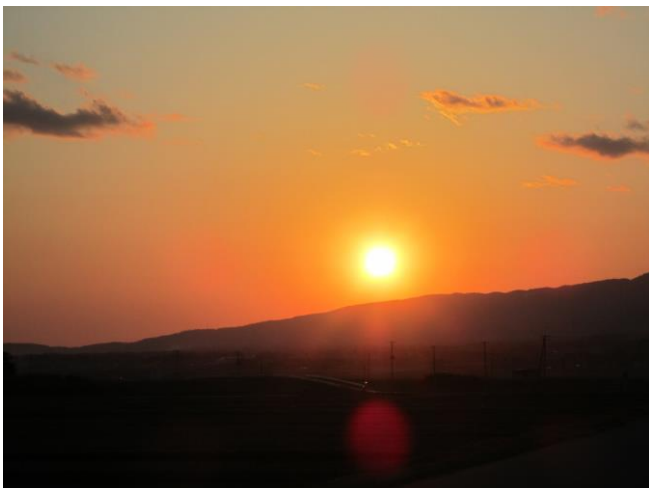


長畝ふるさと通信

【2011年4月号】

■ 日はまた昇る！



東日本大震災から2ヶ月が経過しようとしていますが、その余りにも大きな影響は今でもはかりしれません。さしあたって私たち農業者にとって食糧の確保、安定供給が最大の課題です。経済価値ばかり追求してはいけない、「命の産業」として農業を見直す機会だと思っています。自分たちでやれることはわずかなことですが、やれることをしっかりとやり抜く以外無いと考えています。

「日本人は誇り高く、悲しみに堪え、秩序を保っている。…信じがたいほどの国民だ」とドイツのある雑誌に掲載されている記事を見ました。夕日は毎日沈みますが、翌日には必ず朝日が昇ります。頑張りましょう！

■ 種まき(播種)作業を紹介します。

① 温湯消毒された種もみを水に浸し、種もみが飴色になるまで十分に吸水させます。この間、約2週間。適度に水を入れ替えてやります。

② 十分に吸水した種もみを30度のお湯に約2日間入れて、芽を出させます(催芽)。種もみから白い芽がぷっくりと出てきます。業界では「ハトむね」状態と呼んでいます。

③ いよいよ種まき。組合では1回に約4,500箱を播種します。



まず苗箱に肥料の入った土を敷きます。



その上に種もみ(約140g)を均一に播きます。



播いた種もみに再度土を被せてパレットに積みます。苗箱の重さは約6kg。



密閉された加温室で2～3日、30度で加温ししっかりと発芽させます。



発芽した苗はビニールハウスへ運ばれ、ベルトコンベアーで1箱ずつハウス内へ送り込み、並べていきます。苗が緑化するまでは白いシートを被せ、水分の蒸発を防ぎます。



ビニールハウスへ入れてから3日目、シートをはぐると新緑の苗が現れます。これから田植えまでの約2週間、毎日6時からたつぷりと散水して、お天気の良い日はビニールハウスのサイドビニールを解放して換気し、お昼頃からまた散水、気温が下がればハウスを閉める・・・の繰り返しです。1日の仕事は人間様の都合ではなく、苗様の顔をうかがいながら動くのです。

田植えは5月の5日からの予定です。先に案内した「田植え体験交流ツアー(5月21～22日)」もまだ募集中ですので、ぜひご参加をご検討下さい。